

福 議 委 号
令和 3 年 5 月 2 0 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

総務教育常任委員会
委員長 川村 明雄



所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、令和 3 年 3 月 8 日福島町議会定例会 3 月会議において決定した休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 8 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	1 道立福島商業高等学校の存続対策事業について (その他所管に関する事項について)
調査期間	令和 3 年 5 月 1 8 日
出席委員	委員長 川村 明雄 副委員長 花田 勇 委員 木村 隆 委員 杉村 志朗 委員 平野 隆雄 委員 溝部 幸基
委員外議員	議員 佐藤 孝男 議員 藤山 大
出席説明員	町 長 鳴海 清春 副町長 工藤 泰 総務課長 小鹿 一彦 教育委員会 教育長 小野寺 則之 事務局長 石岡 大志 学校教育次長 西田 真弓
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 係 長 福井 理央 主 査 中島 和俊

[委員会意見]

調査事件 1 道立福島商業高等学校の存続対策事業について (その他所管に関する事項について) (令和3年5月18日調査)

福島商業高校の今年5月1日の1年生の在籍者は11名で、地域連携特例校の再編基準(第1学年の在籍者数2年連続10人未満)は回避したものの、依然厳しい状況にある。

高校の今後の在り方については、昨年10月に調査し、道立高校での存続を前提に、「入学者の全国募集と寮の整備」等を目指す方向性の確認をしているが、この度、町より提出された関係資料に基づき、存続対策事業の内容調査をしたので、調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

道立福島商業高等学校存続対策としての青少年交流施設の整備等については、一定の理解をしたが、次の事項について検討願いたい。

1 青少年交流施設の運営について

当該施設は、全国募集入学生のための生活拠点としての役割のほか、人材育成・成長の場としての意味合いも強い施設となることから、施設運営の方法を、先進地事例を参考に教員等の配置が可能かどうかも含め慎重に検討を進めていただきたい。

また、施設入所生の範囲、利用に係る月額使用料の設定に当たっては、道内類似施設を参考に検討されたい。

なお、資料では施設の維持管理に係るランニングコストの記載がないが、施設整備を検討する上で重要な項目となるので早急に示されるよう指摘する。

2 魅力ある学校づくりについて

魅力ある学校づくりは、全国募集を開始する高校にとって、青少年交流施設整備とともに大きな柱となっている。

現在の福島高校は、商業科を基本として、各種資格取得(簿記・会計・情報処理等)・商品開発、地域と連動した支援活動を展開してきたが、他の全国募集している学校と比較すると強みや魅力が少ないと考えられることから、「将来につながるイメージを持つ学校づくり」に連動する「教育課程・部活動・生徒支援の方向性づくり」に早急に取り組むべきと思慮する。

全国的に対象受験生の減少傾向が続き、獲得競争が激化する状況で、「魅力ある教育課程づくり」は、差別化を図る大きな課題であり、「変動する時代が要求する人材の育成」「町の資源を活かした地域密着型授業」「進学・就職のための特色ある学校運営の支援」等を加味し、福島商業高等学校教育振興会とも連携しながら、北海道教育委員会と協議を円滑に進めることを願う。

また、施設入所生への昼食の提供については、全国募集のアピールポイントにもなるので、高校においても町立学校給食センターの給食提供を是非検討されたい。

3 総括意見

上記の事項を含め、道立福島商業高等学校の存続対策事業を進めるに当たって示されたスケジュールは、全国募集の開始までタイトな日程であり、予定どおり進まなかった場合の影響が大きいいため、スケジュールに捕らわれず検討できるものは早急に進めるべきと思慮する。